

「医療生協さいたま」加盟の病院・診療所を見学

誰もが「尊厳ある人生」を安心して、住み慣れた街で最後まで暮らすことができるようにするために、私たちは、無差別・平等の立場で「治す医療」と「支える医療介護」を提供していきます。

みみはらグループが、みみはら2030年の樹の実現を目指して、病院・在宅医療・住まいの整備、介護や暮らしのサポート、いのちの質の向上に焦点をあて、地域包括ケア事業をどのように実践していくのかをご紹介します。

(社会医療法人同仁会
専務補佐 柴田康宏)

ソフト面でも参考になる

行田協立診療所（行田市）

見学にうかがった「行田協立診療所」は、2020年4月に新築されました。地域交流ゾーンの併設、医療と介護事業所の複合配置と、前身が病院の建物であることともに、鳳フリンニックの建て替え構想を考慮の上で、共通点の多い診療所です。

軒が繋がった平屋で、木目がきれいな化粧屋根裏天井と、三方の壁を腰高窓に囲まれた建物です。ここでは、ストレッチ体操や認知症カフェ、フードパントリーのほか、自治会活動や学生さんの自習場所としても開放し、喜ばれているそうです。窓際のカウンターは、日当たりが良好で過ごしやすく、資料も置いてあり、ここに来れば良いつながりが生まれる、そんな空間でした。

ケアセンター「さぎたま」は、診療所の2階にある居宅介護支援、訪問介護、訪問看護の事業所でした。部門を分ける壁はなく、スタッフ同士、お互いの忙しさが分かることで、円滑な業務連携ができるということでした。iPadを用いた電子システムも活用しながら、診療所の事務長とセンター長の席を

並べて配置し、事業所の一体運営に生かしている印象でした。「うきしろ（忍城の別名）プロジェクト」



と名付けられた、組合員さん、職員、地域の方で構成する運営体が、折に触れて行政、学校や民間組織と懇談を持ち、地域で求められている企画を発信しておられます（ヨガ、キッチンカー）。「若い人も興味を持ってもらえたら」と、インスタグラム投稿にも積極的

で、薬にまつわる植栽をもつことで、中学生の学習にも役立てている念の入れようです。設計以外のソフト面でも参考になる取り組みばかりで、「ぜひに生かしていきたい」と思っています。

（耳原鳳フリンニック
事務長 川畑 望）

地域包括ケア事業検討プロジェクトチーム

地域包括ケア時代のモデル

熊谷生協病院（熊谷市）
埼玉協同病院（川口市）

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、プロジェクトを立ち上げ、将来事業構想の議論を開始するにあたり、医療生協さいたまの所属する事業所に、プロジェクトメンバーの一員として見学しました。

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、プロジェクトを立ち上げ、将来事業構想の議論を開始するにあたり、医療生協さいたまの所属する事業所に、プロジェクトメンバーの一員として見学しました。



熊谷生協病院

「行田協立診療所」は、2020年4月に新築されました。地域交流ゾーンの併設、医療と介護事業所の複合配置と、前身が病院の建物であることともに、鳳フリンニックの建て替え構想を考慮の上で、共通点の多い診療所です。

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、事業構想・計画の立案に尽力する

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、事業構想・計画の立案に尽力する

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、事業構想・計画の立案に尽力する

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、事業構想・計画の立案に尽力する

「みみはら2030年の樹」のビジョン達成に向けて、事業構想・計画の立案に尽力する

基本コンセプト
「地域包括ケア時代に輝く病院」

新たに開設する病院の名称は「ふれあい生協病院」です。

病院整備計画に54床申請した結果、25床の増床が認められ、埼玉協同病院から28床移し53床の地ケア病床になります。

埼玉協同病院は「2つの病院」に進化

医療生協さいたまの東北地域の病院として、医療福祉・介護のネットワーク

行田協立診療所
熊谷生協病院
ケアセンター
介護福祉施設

こくまちゃんち

Kumagaya cooperative hospital
熊谷生協病院 ご案内

熊谷市上野町の「こくまちゃんち」

「みみはら2030年の樹」の実現を目指して